医療従事に関するキャリアデザインの実態調査
愛媛大学医学部生の調査結果について

奈須 悠樹[1)]，向 平和[2)]，隅田 学[2)]，小林 直人[3)]，上田 敏子[2)]

1）愛媛大学大学院教育学研究科
2）愛媛大学教育学部
3）愛媛大学医学部附属総合医学教育センター

Survey of Career Design for Medical Professionals
Survey results for students of School of Medicine, Ehime University

Yuki Nasu[1)], Heiwa Muko[2)], Manabu Sumida[2)], Naoto Kobayashi[3)], Toshiko Ueda[2)]

1）Graduate School of Education, Ehime University
2）Faculty of Education, Ehime University
3）General Medical Education Center, Ehime University School of Medicine

1. はじめに

平成30年に明るみに出た医学部不正入試問題では，大学の対応などに焦点が当てられ，医療従事に関するキャリア教育には触れられることは少なかった。しかし，地方の多くでは医者を筆頭として，医療従事者の確保は大きな問題となっている。愛媛大学医学部の両学科では，2021年度入試から新たな「地域枠」を設けるなど，県内からの受験生確保に努めている。人口構成の変化から今後さらに医療従事者を目指す人材の確保が必要であり，医療に関わるキャリア教育の充実が重要視されていくことが予想される。

また，Society 5.0を生きることとなる子どもたちの進路は多様化し，イノベーティブ人材の育成が求められており，子どもたちに対するキャリア教育の充実も求められている。上述の要因に加えて，医療系専門職は国家資格を取得するために目的養成系の高等教育機関への入学が必要であり，特に医学科への進路選択は中高一貫校が医学科への合格者が多いことから早期の職業選択が優位になる傾向が見られる。また，落合ら（2006）では小中学校等で進路決定する早期決定型の学生が職業選択への自信が高く，大学入学後も継続していることを報告している。そこで，医療従事に関するキャリアデザインの教材開発が必要であると考えた。

以上のことを踏まえ，医療分野への興味やキャリア選択がいつどの時期に行われているのか把握し，それに合わせた医学教育を導入する必要がある。そこで本研究ではまず，医学部生への質問紙調査によって医療従事に関するキャリアデザインの実態を明らかにすることとした。

医療系専門職を目指す学生を対象とした進路選択に関する先行研究には，医学生を対象の大学選択に対する意識調査（桜井ら 1995），医療系専門学校生（理学療法士・作業療法士）を対象とした進学動機（中野ら 2009），看護科学生に対する志望動機等に関する調査（波多野ら 1993，山川ら 2012，落合ら 2006）などがある。これらの研究では，大学生がいつ進路決定したか，または職業観などについて調査している。これらの先行研究から10年以上経過しており，地域性を含めて医療従事に関するキャリアデザインの実態を調査する必要があると考えられる。

本研究では，愛媛大学医学部の医学科，看護学科の1年生に質問紙調査を実施し，その結果をもとに，医学部生の大学入学以前の進路選択がどのようにして行われていたのか，大学入学以前に進路選択について考える機会や授業があったか，医学科と看護学科や性別の間で進路選択の時期や意識などの要因や，今現在の自身の適性や重視しているスキルに差があるか分析を行った。

2. 方　　法

2.1 調査対象

質問紙調査の対象は愛媛大学医学部医学科（男 49 名，女 45 名，計 104 名），看護学科（男 2 名，女 57 名，計 59 名）の 1 回生である。質問紙への回答は，授業で学生に記入してもらい，授業終了時に回収した。また，調査の趣旨と質問紙の回答内容が成績に影響しないことを説明して，学生の同意を得た上で質問紙の回答を依頼した。なお，本調査については，愛媛大学教育学部研究倫理委員会による審査を受け，承認されている（受付番号 R1-R13）。回収率は 100% で，回収した 164 件中，有効回答である 163 件（99.4%）を分析の対象とした。

表 1　質問紙の設問

① 医学部を目指そうと考えたのはいつからですか。最も当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. 幼稚園・保育園以前　4. 高校生の時
2. 小学生の時　5. 高校卒業以降
3. 中学生の時　6. 覚えていない

② あなたはどのようにして医学部を志望しましたか。最も当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. 自らの意志で　3. 教師・塾講師等の勧めで
2. 家族・親戚の勧めで　4. そのほか（　　）

③ 医療従事者（医師，看護師など）を目指す目的は何ですか。当てはまるものを上位 3 つまで選んで，下の欄に記入してください。（3 つすべて選ばなくても大丈夫です。）
1. 社会貢献のため　5. 使命感があるため
2. 研究のため　6. 特になし・なんとなく
3. 名誉のため　7. そのほか（　　）
4. 将来の経済的安定のため

④ 医療従事者（医師，看護師など）を目指すきっかけは何ですか。当てはまるものを上位 3 つまで選んで，下の欄に記入してください。（3 つすべて選ばなくても大丈夫です。）
1. 素晴らしい医療従事者に憧れた　6. 家族・親族に医療従事者がいるため
2. 専門書を読んで興味がわいた　7. 医学に関する博物館等の展示
3. 行っている研究に興味をひかれた　8. 医学の体験活動
4. 医学関係者が書いたエッセイ　9. 特になし・なんとなく
5. TV ドラマ・小説・漫画などの創作　10. そのほか（　　）

⑤ 今通っている大学に関わらず，第 1 志望の大学を選ぶ際，何を最も重視しましたか。当てはまるものを上位 3 つまで選んで，下の欄に記入してください。（3 つすべて選ばなくても大丈夫です。）
1. 知名度の高さ　7. 偏差値
2. 医師国家試験合格率　8. 家族・親戚の勧め
3. 地理的環境　9. 授業料などの学費
4. 研究内容　10. 関連機関との連携
5. 大学の教育方針　11. そのほか（　　）
6. 大学の形態

⑤で 3 と答えた人は，主にどのような理由で選んだか，当てはまるものすべて教えてください。
1. 通学に便利　4. 自身の出生地に近い
2. 自然環境がよい　5. 自身と全く関係ない地域である
3. 自身の出身地に近い

⑤で 7 と答えた人は，どれが理由か 1 つ選んでください。
1. 高い　2. 普通　3. 低い

⑥ 医療従事者（医師，看護師など）になる上で，重要となるスキルは何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。
1. 専門知識の豊富さ　5. 時間管理能力
2. 手先の器用さ　6. 情報収集力
3. コミュニケーション能力　7. 特になし
4. カウンセリング能力　8. そのほか（　　）

⑦ 医学部生になった後，最も「苦戦している」と感じるものは何ですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. 専門知識の修得　4. 自身の生活管理
2. 手術など技能向上のための練習　5. 特になし
3. 人間関係の構築　6. そのほか（　　）

⑧ あなた自身，医療従事者（医師，看護師など）や看護師への適性があると感じていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. 感じる　3. あまり感じない
2. まあ感じる　4. 全く感じない

⑨ 医学部を考える際，高校までの授業で学んだ内容は役に立ったと感じますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. 感じる　3. あまり感じない
2. まあ感じる　4. 全く感じない

⑨で 1，2 と答えた人はどの科目が役立ったと感じますか？
下の欄に記入してください。
（　　）

⑩ 医学部に入るまで，病院や大学が行っている体験型学習を受けたことがありますか？当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. あった　2. なかった

⑪ 医学部に入るまでに医学について考える機会を与える催しは必要ですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
1. 必要である。　3. まあ必要でない
2. まあ必要である　4. 必要でない

2.2 質問紙の構成

質問項目は，「大学選択に関する医学生の意識調査（桜井ら 1995）」を参考に，①～⑪の 11 項目で構成している。その具体を表 1 に示す。

多くの質問項目は多肢選択式で，「⑨で 1，2 と答えた人はどの科目が役立ったと感じますか」では自由記述である。

2.3 分析方法

今回収集したデータにおいて，看護学科については，男性が少数のため，男女間の比較は行わなかった。従って，医学科と看護学科の間，医学部内での男女間で，χ^2 検定を行った。質問項目③～⑤は順位回答式であるため，1 番を 3 点，2 番を 2 点，3 番を 1 点とし，それぞれを加点して割合を求め，検定を行い，意思の傾向を考察した。

3. 調査結果

3.1 質問①への回答結果

「医学部を目指そうと考えたのはいつからですか」という質問内容に対する回答結果を表 2，図 1 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=8.2910，p=0.0040 となり，5％水準で有意差が確認された。図 1 より，医学科よりも看護学科の方が高校生の時に進路を決定した割合が多い。従って，医学科への進路決定は看護学科の進路決定より早期であることがわかった。

B. 医学科男女の比較

χ^2=4.0328，p=0.0449 となり，5％水準で有意差が確認された。図 1 より，男女間では女子の方が，進路決定が早い傾向が見られた。

これらより医学部を目指した学生，特に医学科に進学した学生は，比較的早期に進路決定していると考えられる。

表 2　①の回答数

	医学部 *		医学科 *	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 幼稚園・保育園以前	3(3%)	3(5%)	1(2%)	2(4%)
2 小学生の時	27(26%)	12(20%)	15(25%)	12(27%)
3 中学生の時	24(23%)	9(15%)	13(22%)	11(24%)
4 高校生の時	38(37%)	33(56%)	22(37%)	16(36%)
5 高校卒業以降	6(6%)	1(2%)	5(8%)	1(2%)
6 覚えていない	6(6%)	1(2%)	3 (5%)	3(7%)

* : p <0.05

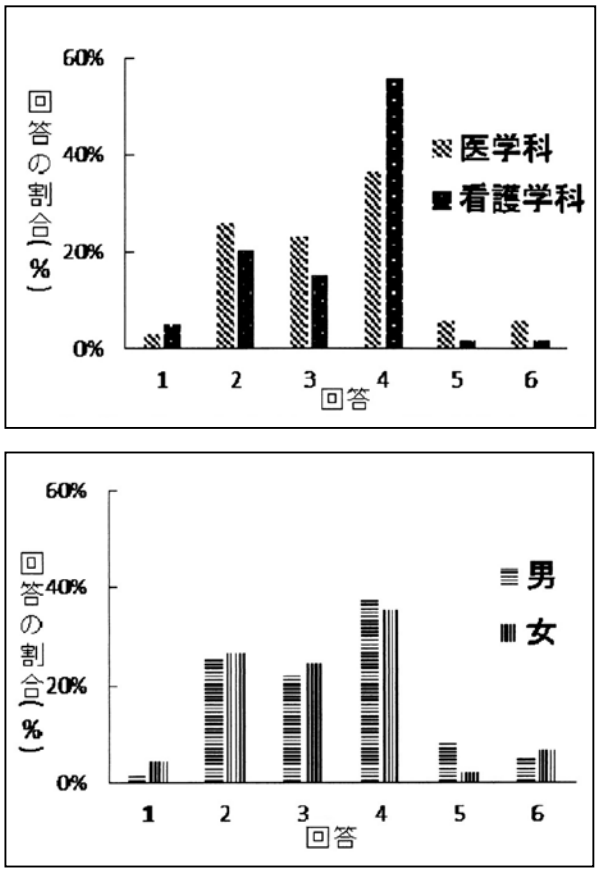


図１．①の回答割合（上：医学部，下：医学科）

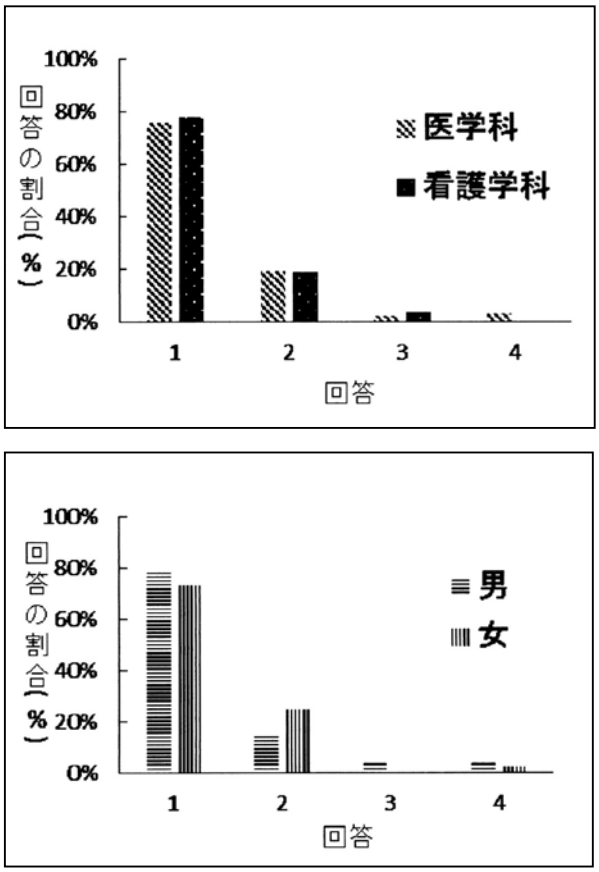


図２．②の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.2 質問②への回答結果

「②あなたはどのようにして医学部を志望しましたか」という質問内容に対する回答結果を表３，図２に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=2.0585，p=0.1514 となり，5％水準で有意差が確認されなかった。図２より，医学科，看護学科ともに自身の意志によって医学部を選択した学生の割合が多いといえる。

B. 医学科男女の比較

χ^2=2.8394, p=0.0092 で, 5％水準で有意差が確認された。図２と男女間の比較から女子学生の方が家族等のすすめで決定している割合が高いことがわかった。

表３　②の回答数

	医学部		医学科	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 自らの意志で	79(76%)	46(78%)	46(78%)	33(73%)
2 家族・親戚の勧めで	20(19%)	11(19%)	9(15%)	11(24%)
3 教師・塾講師等の勧めで	2(2%)	2(3%)	2(3%)	0(0%)
4 そのほか	3(3%)	0(0%)	2(3%)	1(2%)

3.3 質問③への回答結果

「③医療従事者（医師，看護師など）を目指す目的は何ですか」という質問内容に対する回答結果を表４，図３に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=39.0596，p=4.1106 × 10^{-10}，5％水準で有意差が確認された。全体的に「社会貢献のため」という理由を選択する割合が多く，「研究のため」や「名誉のため」と選択した割合は少なかった。全体的に「将来の経済安定のため」という選択肢の割合が高く，特に看護学科は医学科より高い。

B. 医学科男女の比較

χ^2=19.5064，p=1.0026 × 10^{-5} であり，5％水準で有意差が確認された。

図３より，医学科・看護学科間と同じように，「社会貢献のため」という理由を選択する割合が多く，「研究のため」や「名誉のため」と選択した割合は少なかった。全体的に「将来の経済安定のため」という選択肢の割合が高い。

表４　③の回答点数

回　答	医学部 * 医学科	医学部 * 看護学科	医学科 * 男	医学科 * 女
1 社会貢献のため	216(39%)	107(36%)	114(36%)	102(43%)
2 研究のため	26(5%)	4(1%)	20(6%)	6(3%)
3 名誉のため	14(3%)	6(2%)	9(3%)	5(2%)
4 将来の経済安定のため	124(22%)	108(36%)	79(25%)	45(19%)
5 使命感があるため	109(19%)	36(12%)	51(16%)	58(24%)
6 特になし・なんとなく	34(6%)	26(9%)	29(9%)	5(2%)
7 そのほか	37(7%)	14(5%)	19(6%)	18(8%)

*：p <0.05

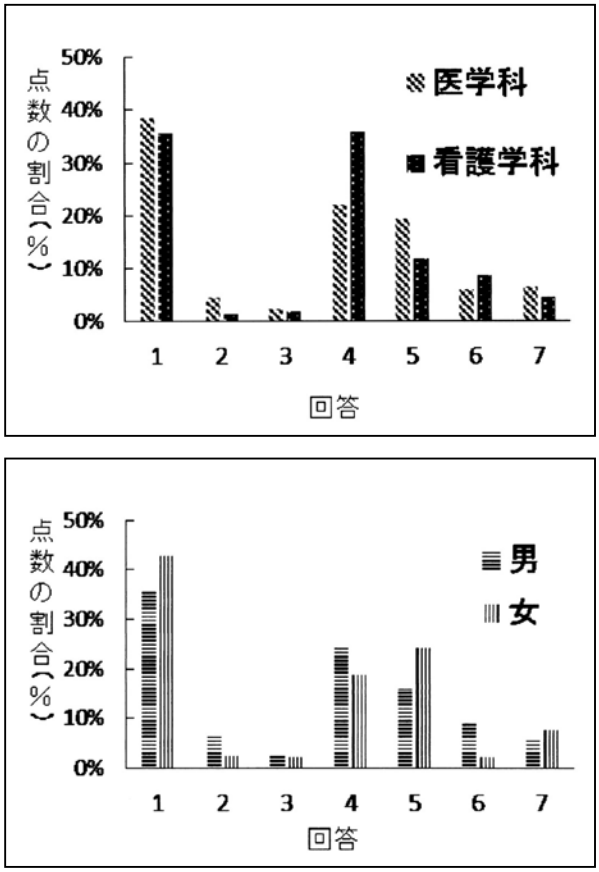


図３．③の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.4 質問④への回答結果

「④医療従事者を目指すきっかけは何ですか」という質問内容の結果を，以下の表5，図４に示す。これらより，全体的に「家族・親族に医療従事者がいるため」「素晴らしい医療従事者に憧れたため」という理由の割合が高い。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=105.7837，p=8.2237 × 10^{-25} となり，5%水準で有意差が確認された。医学科と看護学科を比較すると，看護学科の方が「家族・親族に医療従事者がいるため」を理由とする場合が強い。また看護学科には「医学に関する博物館等の展示」で目指すものはいなかった。

B. 医学科男女の比較

χ^2=36.1479，p=1.8289 × 10^{-9} となり，5%水準で有意差が確認された。医学部の男女間では，男子の方が「行っている研究に興味をひかれた」「特になし・なんとなく」という意識が多く，女子は「家族・親族に医療従事者がいるため」「そのほか」を意識している場合が多い。「そのほか」の主な理由としては，自身や家族の経験と将来の安定性・身近な人物からの勧めをきっかけとしていた。

表５　④の回答点数

回　答	医学部 * 医学科	医学部 * 看護学科	医学科 * 男	医学科 * 女
1 素晴らしい医療従事者に憧れた	127(24%)	51(17%)	76(25%)	51(21%)
2 専門書を読んで興味がわいた	18(3%)	14(5%)	8(3%)	10(4%)
3 行っている研究に興味をひかれた	30(6%)	4(1%)	25(8%)	5(2%)
4 医学関係者が書いたエッセイ	22(4%)	7(2%)	15(5%)	7(3%)
5 TV ドラマ・小説・漫画などの創作	75(14%)	46(16%)	38(13%)	37(16%)
6 家族・親族に医療従事者がいるため	116(22%)	87(30%)	56(19%)	60(25%)
7 医学に関する博物館等の展示	7(1%)	(0%)	3(1%)	4(2%)
8 医学の体験活動	50(9%)	36(12%)	29(10%)	21(9%)
9 特になし・なんとなく	40(7%)	20(7%)	32(11%)	8(3%)
10 そのほか	53(10%)	29(10%)	18(6%)	35(15%)

*：p <0.05

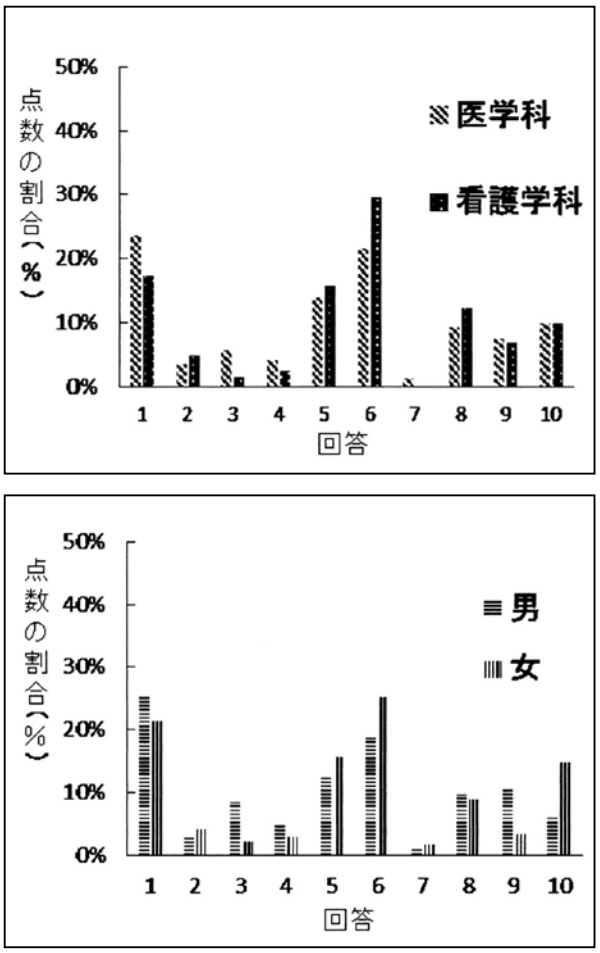


図４．④の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.5 質問⑤への回答結果

「⑤今通っている大学に関わらず，第一志望の大学を選ぶ際，何を最も重視しましたか」という質問内容の回答結果を，以下の表6，図5に示す。これらより，全体的に「地理的環境」「偏差値」「授業料などの学費」が高い。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=38.9615，p=4.3226 × 10^{-10} となり，5％水準で有意差が確認された。表6，図5より，医学科と看護学科では，医学科の方が「地理的環境」を理由とする割合が比較的多く，看護学科の方が医学部よりも「偏差値」を理由とする割合が高い。この理由としては，医学部の数が少なく，看護学科や看護に関係する専修学校の方が比較的多く存在していることが理由の一つとして挙げられる。

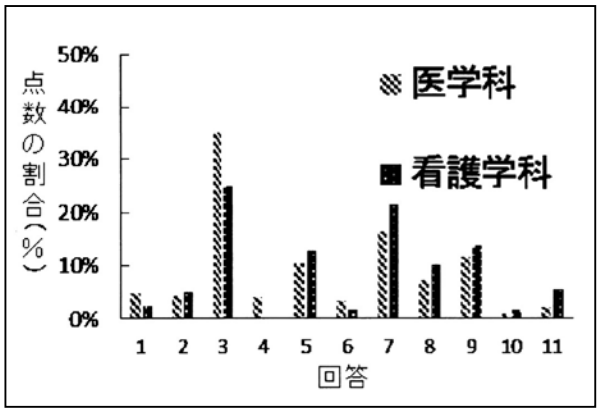
B. 医学科男女の比較

χ^2=15.1965，で，p=9.6881 × 10^{-5} となり，5％水準で有意差が確認された。表6，図5より，医学科の男女間では，男子の方が「授業料などの学費」を理由とする割合が多い。

表６　⑤の回答点数

	医学部 *		医学科 *	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 知名度の高さ	27(5%)	8(2%)	16(5%)	11(4%)
2 医師国家試験合格率	25(4%)	17(5%)	19(6%)	6(2%)
3 地理的環境	201(35%)	85(25%)	113(35%)	88(35%)
4 研究内容	23(4%)	1(0%)	12(4%)	11(4%)
5 大学の教育方針	59(10%)	44(13%)	30(9%)	29(11%)
6 大学の形態	19(3%)	6(2%)	8(3%)	11(4%)
7 偏差値	94(16%)	73(21%)	49(15%)	45(18%)
8 家族・親戚の勧め	41(7%)	35(10%)	21(7%)	20(8%)
9 授業料などの学費	66(12%)	47(14%)	45(14%)	21(8%)
10 関連機関との連携	5(1%)	6(2%)	2(1%)	3(1%)
11 そのほか	13(2%)	19(6%)	4(1%)	9(4%)

*：p <0.05



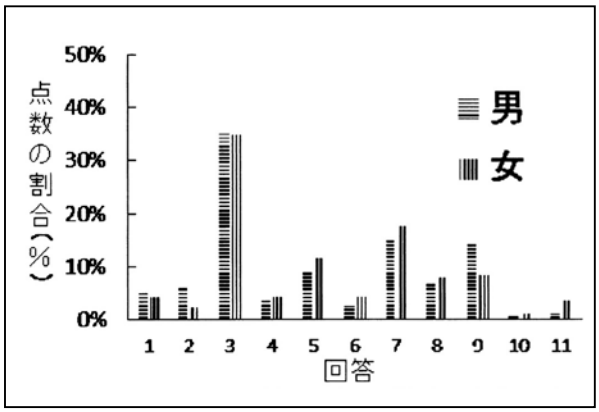


図５．⑤の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.5 質問⑤-1 への回答結果

「⑤で３（地理的環境）と答えた人は，主にどんな理由で選んだか」という質問内容（⑤-1 とする）では，表7，図6で示す結果となった。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=0.3811，p=0.537 となり，5% 水準で有意差は確認されなかった。

B. 医学科男女の比較

χ^2=2.3023，p=0.1292 で，5% 水準で有意差は確認されなかった。

表7，図6で示されるように，医学部，医学科ともに「通学に便利」,「自身の出生地である」と回答する場合が多く，そのほかの選択肢も傾向が同じである。つまり，医学科と看護学科，医学科の男女はともに，地理的要因を大学選択の理由とする際，その詳しい理由に差はない。

表７　⑤-1 の回答数

	医学部		医学科	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 通学に便利	33(40%)	13(36%)	19(40%)	14(40%)
2 自然環境がよい	17(21%)	7(19%)	9(19%)	8(23%)
3 自身の出身地に近い	57(70%)	23(64%)	34(72%)	23(66%)
4 自身の出生地に近い	33(40%)	15(42%)	18(38%)	15(43%)
5 自身と全く関係ない地域である	9(11%)	5(14%)	3(6%)	6(17%)

*：p <0.05

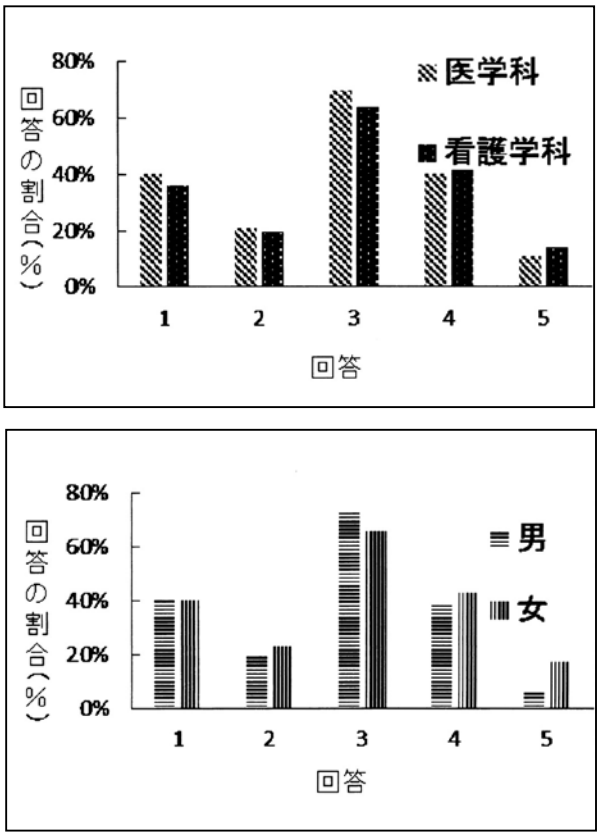


図 6．⑤-1 の回答割合（左：医学部，上：医学科）

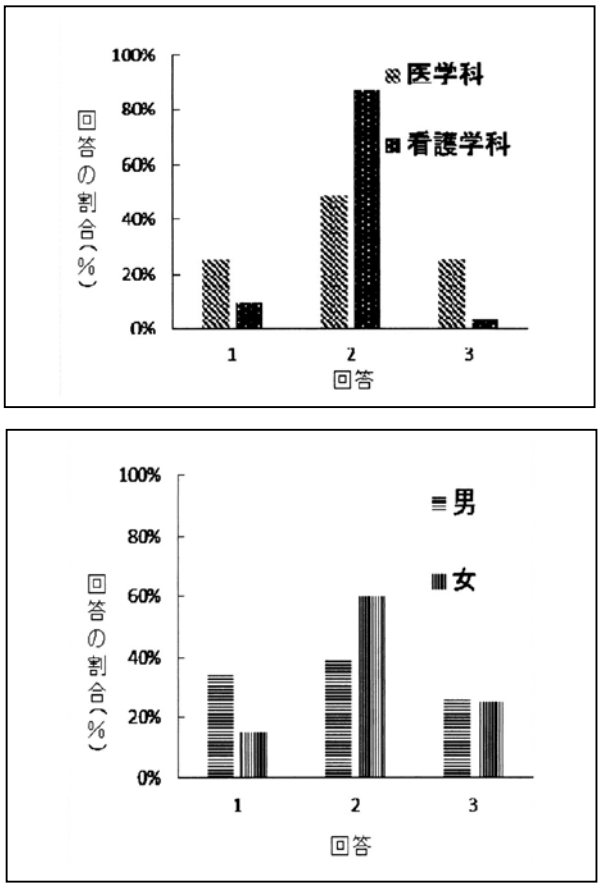


図 7. ⑤-2 の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.5 質問⑤-2 への回答結果

「⑤で 7（偏差値）と答えた人は，どれが理由か 1 つ選んでください」という質問内容（⑤-2 とする）の結果を表 8，図 7 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=12.22，p=0.000 となり，5% 水準で有意差が確認された。表 8，図 7 より，医学科は比較的全体にばらつきがあるのに対し，看護学科は「普通」の回答に大きく偏っている。医学科は偏差値が自分の学力にあっていることを理由に選んでいることが分かった。

B. 医学科男女の比較

χ^2=3.044，p=0.081 で，5% 水準で有意差は見られなかった。

表 8　⑤-2 の回答数

	医学部 *		医学科	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 高い	11(26%)	3(10%)	8(35%)	3(15%)
2 普通	21(49%)	27(87%)	9(39%)	12(60%)
3 低い	11(26%)	1(3%)	6(26%)	5(25%)

* : p <0.05

3.6 質問⑥への回答結果

「⑥医療従事者（医師，看護師など）になる上で，重要となるスキルは何ですか。」という質問内容に対する回答結果を以下の表 9，図 8 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=1.4788，p=0.2239 となり，5% 水準で有意差は確認できなかった。

B. 医学科男女の比較

χ^2=2.8521，p=0.091 となり，5% 水準で有意差は確認できなかった。

表 9，図 8 より，全ての項目において特に差はみられなかった。傾向としては，コミュニケーション能力と専門知識の豊富さは回答割合が多く，特にコミュニケーション能力は 100%となっている。

表９　⑥の回答数

回　答	医学部 医学科	医学部 看護学科	医学科 男	医学科 女
1 専門知識の豊富さ	96(92%)	53(90%)	53(90%)	43(96%)
2 手先の器用さ	49(47%)	24(41%)	24(41%)	25(56%)
3 コミュニケーション能力	104(100%)	59(100%)	59(100%)	45(100%)
4 カウンセリング能力	61(59%)	26(44%)	32(54%)	29(64%)
5 時間管理能力	68(65%)	42(71%)	39(66%)	29(64%)
6 情報収集力	65(63%)	36(61%)	38(64%)	27(60%)
7 特になし	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
8 そのほか	2(2%)	0(0%)	1(2%)	1(2%)

*：p <0.05

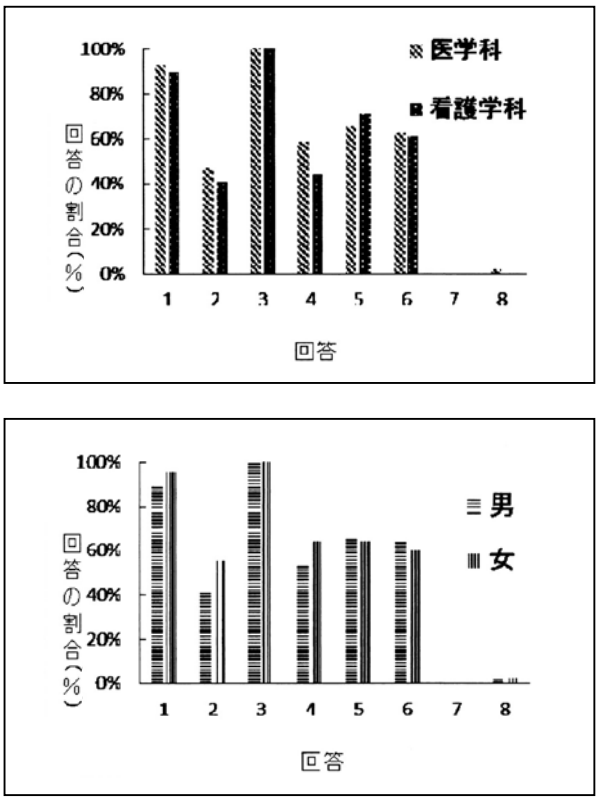


図 8. ⑥の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.7 質問⑦への回答結果

「⑦医学部生になった後，最も「苦戦している」と感じるものは何ですか」という質問内容に対する回答結果を表 10，図 9 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=8.4193，p=0.0003 となり，5% 水準で有意差が見られた。表 10，図 9 より，看護学科は医学科より「専門知識の修得」に苦戦している割合が多く，医学科は人間関係の構築や生活管理などに重きを置いていた。これは医学科や看護学科の授業の種類に差があるのではないかと考察した。

B. 医学科男女の比較

χ^2=5.5045，p=0.0189 となり，5% 水準で有意差がみられた。表 10，図 9 より医学科の男女間では，女子は専門知識の修得に苦戦している割合が高いといえる。

表 10　⑦の回答数

回　答	医学部 * 医学科	医学部 * 看護学科	医学科 * 男	医学科 * 女
1 専門知識の修得	36(37%)	32(59%)	18(31%)	18(45%)
2 手術などの技能向上のための練習	2(2%)	1(2%)	2(3%)	0(0%)
3 人間関係の構築	16(16%)	4(7%)	10(17%)	6(15%)
4 自身の生活管理	32(33%)	13(24%)	19(33%)	13(33%)
5 特になし	8(8%)	2(4%)	5(9%)	3(8%)
6 そのほか	4(4%)	2(4%)	4(7%)	0(0%)

*：p <0.05

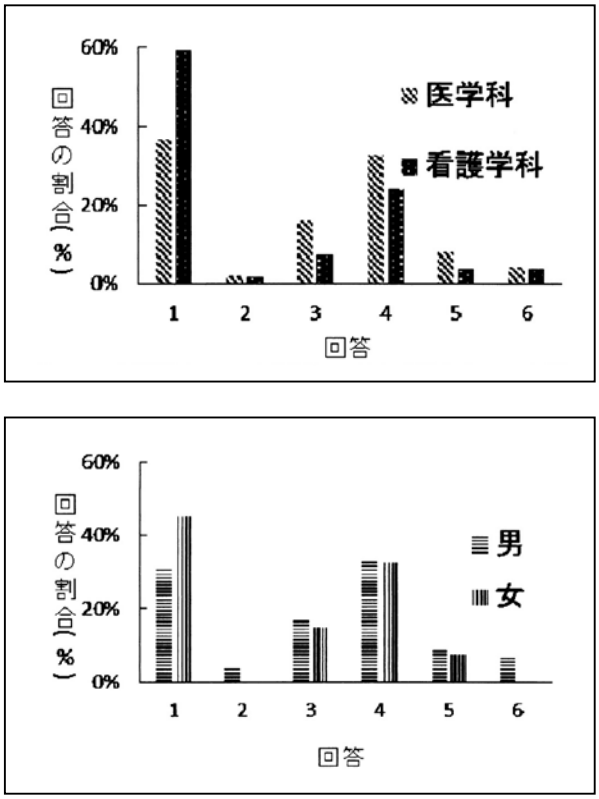


図 9．⑦の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.8 質問⑧への回答結果

「⑧あなた自身，医療従事者（医師，看護師など）や看護師への適性があると感じていますか」という質問内容の回答結果を表 11，図 10 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=8.096，p=0.0043 となり，5% 水準で有意差が確認された。表 11，図 10 より，医学部では看護学科の学生の方が将来の職業に対する適正を「あまり感じない」と評価する割合が多い。これは進路決定の時期が関係していると考えられる。

B. 医学科男女の比較

χ^2=11.028，p=0.0009 となり，5% 水準で有意差が確認

された。表 11，図 10 より，医学科では男性の方が女性よりも，自身の職業への適性を「まあ感じる」と答えた割合は少なく，「あまり感じない」と回答した割合が多い傾向にある。

表 11　⑧の回答数

	医学部 *		医学科 *	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 感じる	18(17%)	5(9%)	9(15%)	9(20%)
2 まあ感じる	61(59%)	27(47%)	29(49%)	32(71%)
3 あまり感じない	23(22%)	24(41%)	20(34%)	3(7%)
4 全く感じない	2(2%)	2(3%)	1(2%)	1(2%)

* : p <0.05

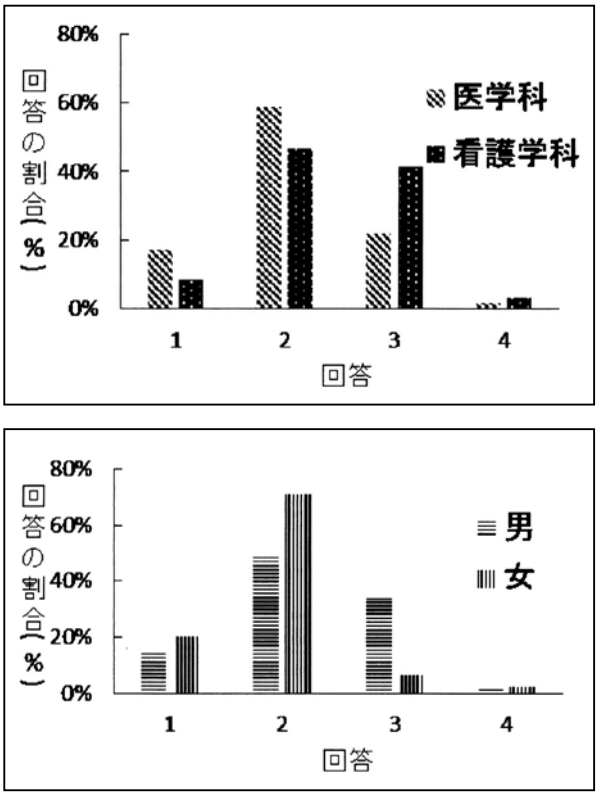


図 10．⑧の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.9 質問⑨への回答結果

「⑨医学科を考える際，高校までの授業は役にたったと感じますか」という質問内容では，以下の表 12，図 11 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=4.8767，p=0.0272 となり 5% 水準で有意差が確認された。

B. 医学科男女の比較

χ^2=2.6165，p=0.10578 となり，5% 水準で有意差が確認されなかった。

図 11 より，医学科内では男性の方が女性よりも，今までの授業が役にたったと「感じる」と答えた割合は少なく，「全く感じない」と回答した人が多い。このことから医学科では，男子の方が女子より高校までの授業が役立っていないと考える傾向が強いと考察できる。

表 12　⑨の回答数

	医学部 *		医学科	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 感じる	18(17%)	8(14%)	8(14%)	10(22%)
2 まあ感じる	27(26%)	22(38%)	16(27%)	11(24%)
3 あまり感じない	47(45%)	23(40%)	25(42%)	22(49%)
4 全く感じない	12(12%)	5(9%)	10(17%)	2(4%)

* : p <0.05

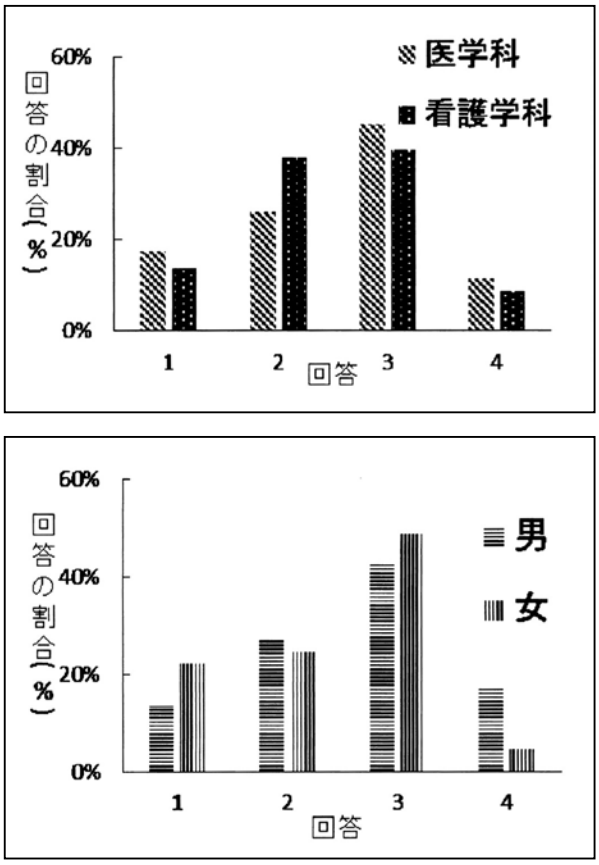


図 11. ⑨の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.9 質問⑨ -1 への回答結果

「⑨で 1，2 と答えた人はどの科目が役立ったと感じますか」という質問項目（⑨ -1）の結果を，2 つ以上上げられているものに絞り，以下の表 13，図 12 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=18.8435，p=1.4190 で，5% 水準で有意差が確認できた。

B. 医学科男女の比較

χ^2=2.8622，p=0.0907 で，5% 水準で有意差は見られなかった。

全体的に生物と答えるものが多く，特に看護学科では高

い割合であった。また体育･保健体育は,医学科では役立ったと回答するものがいなかった。理科の選択科目の学科や性別の差が関係しているのではないかと考察した。

表 13　⑨-1 の回答数

	医学部 *		医学科	
回　答	医学科	看護学科	男	女
生物	18(31%)	37(77%)	10(33%)	8(29%)
生物基礎	4(7%)	6(17%)	2(4%)	2(10%)
英語	10(16%)	2(7%)	6(21%)	4(10%)
国語	5(11%)	2(7%)	3(13%)	2(10%)
数学	8(13%)	1(3%)	7(21%)	1(5%)
物理	7(16%)	0(0%)	5(21%)	2(10%)
体育・保健体育	0(0%)	2(7%)	0(0%)	0(0%)

* : p <0.05

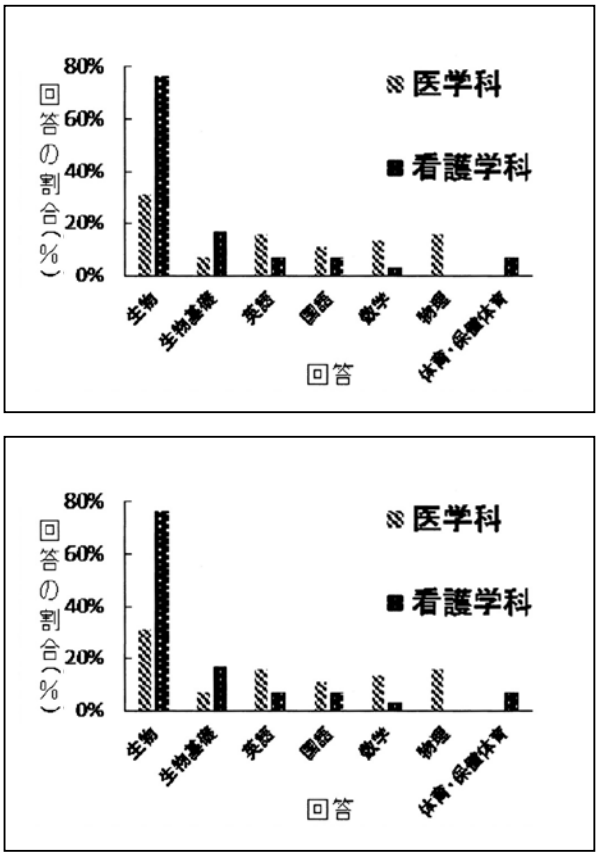


図 12. ⑨-1 の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.10 質問⑩への回答結果

「⑩医学科に入るまでに病院や大学が行っている体験型学習を受けたことがありますか」という質問内容に対する回答結果を表 14，図 13 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=0.5974，p=0.4395 となり，5% 水準で有意差は見られなかった。

B. 医学科男女の比較

χ^2=2.2678，p=0.1321 で，5% 水準で有意差は見られなかった。

表 14，図 13 をみると，医学部・医学科ともに参加した割合と参加しなかった割合はおおよそ半数である。このことから医学科も看護学科も，男女関係なく，体験型学習におよそ半数が参加していることが示された。

表 14　⑩の回答数

	医学部		医学科	
回　答	医学科	看護学科	男	女
1 あった	49(47%)	31(53%)	24(41%)	25(56%)
2 なかった	55(53%)	27(47%)	35(59%)	20(44%)

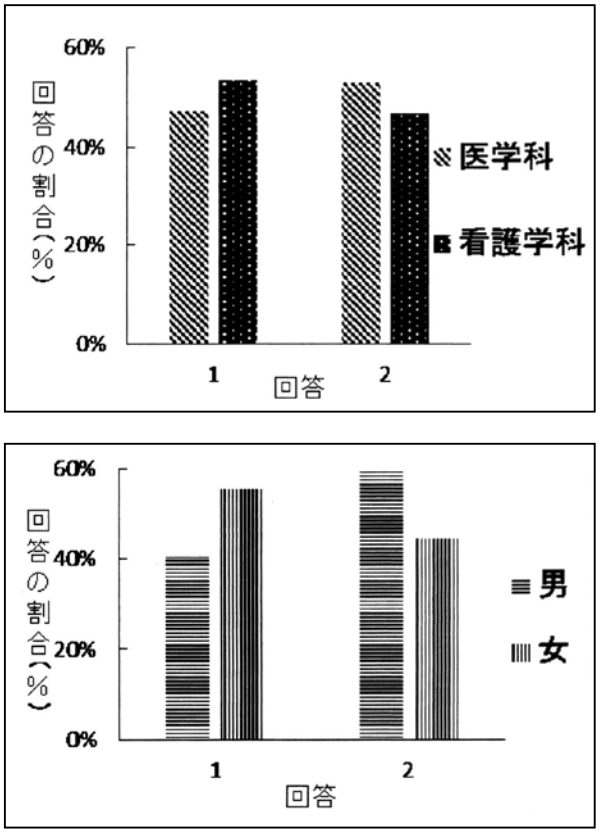


図 13. ⑩の回答割合（上：医学部，下：医学科）

3.11 質問⑪への回答結果と考察

「⑪医学部に入るまでに医学について考える機会を与える催しは必要ですか」という質問内容に対する回答結果を表 15，図 14 に示す。

A. 医学部の医学科と看護学科の比較

χ^2=4.25165，p=0.0392 となり，5% 水準で有意差が確認できた。医学科の方が「必要である」と強く肯定する割合が多く，「まあ必要ない」「必要ない」と回答した割合が少ない。

B. 医学科男女の比較

χ^2=5.0348，p=0.0248 となり，5% 水準で有意差は見られた。

これらのことから,医学科内でも医学科内の性別間でも,

それぞれ考える機会を与える催しの必要性に差があるといえる。

表 15　⑪の回答数

	医学部 *		医学科 *	
	医学科	看護学科	男	女
1 必要である	59(57%)	24(41%)	31(53%)	28(62%)
2 まあ必要である	37(36%)	26(45%)	21(36%)	16(36%)
3 まあ必要ない	6(6%)	5(9%)	6(10%)	0(0%)
4 必要ない	2(2%)	3(5%)	1(2%)	1(2%)

* : p <0.05

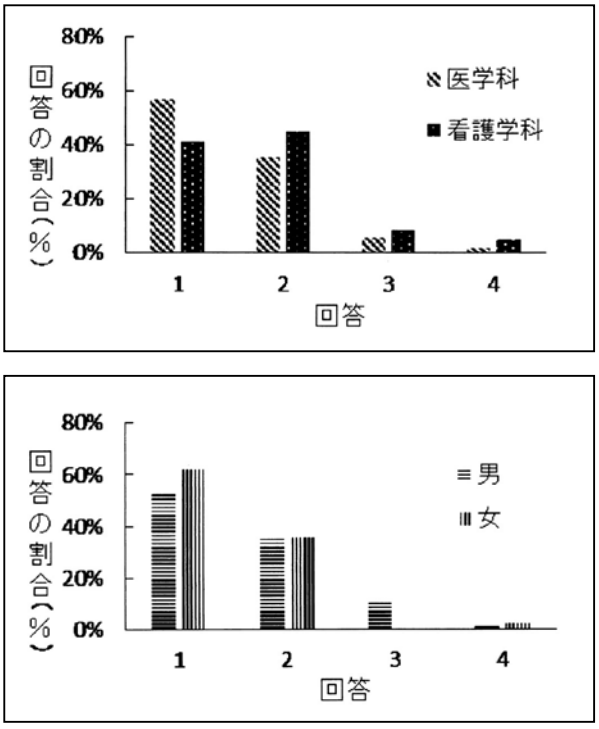


図 14. ⑪の回答割合（上：医学部，下：医学科）

4．考　　察

本研究では，愛媛大学医学部の医学科，看護学科の１年生に質問紙調査を実施し，その結果をもとに χ^2 検定を用いて分析を行った。これにより医学科と看護学科の間，医学部の男女間の２つの関係の間で，進路決定の時期や重視したもの，進路決定の意識やきっかけ，また入学後の適性の意識や重視しているスキルなどに違いが見られた。

質問①の回答結果より，医学科に進学した学生は，看護学科と比較して小学校や中学校で比較的早期に進路決定していることがわかった。落合ら（2006）において理学療法科より看護科の方が，進路決定が早いことが報告されている。合わせて考察すると，医学科，看護学科，理学療法科の順で進路決定が早いと考えられる。

質問②の回答結果より，医学科の男女間で有意に差があり，女子の方が家族・親戚の勧めで進路を決定している学生が多いことが分かった。

質問③の回答結果より，医療従事者志望の動機を，先行研究である桜井ら（1995）と比較していく。桜井ら（1995）は複数回答であり，本調査のように順位付けされていないため，回答者の割合を比較していく。

桜井ら（1995）では，「病める人に奉仕」と回答した割合が 64.6％と最も多く，「医学研究」（45.2％），「尊敬される」（23.7％）と続く。表 16 より，本研究では「社会貢献」と回答した人数の割合が 79.8% と最も高い。次いで「将来の経済安定」が 71.8%,「使命感がある」が 44.2% と続いた。特に「経済的安定」は，看護学科で限定すると 78.0% と，看護学科の「社会貢献」と回答した割合の 74.6% より高い値となった。これから，医療従事者を目指すものは，「病める人に奉仕」や「社会貢献」,「使命感」といった，他者への配慮を主とした理由で志望するということが分かった。桜井ら（1995）より「経済的安定」という回答の割合が高くなった理由として，社会が変容していく中，安定した経済基盤を獲得しようという思いが若者の間で強くなってきているためではないかと考察した。

表 16　③の回答割合

	医学部		
回　答	医学科	看護学科	全　体
1 社会貢献のため	82.7%	74.6%	79.8%
2 研究のため	11.5%	5.1%	9.2%
3 名誉のため	10.6%	6.8%	9.2%
4 将来の経済安定のため	68.3%	78.0%	71.8%
5 使命感があるため	51.0%	32.2%	44.2%
6 特になし・なんとなく	15.4%	22.0%	17.8%
7 そのほか	15.4%	11.9%	14.1%

質問④の回答結果より，医療従事を目指したきっかけは，医学科と看護学科の間，医学科の男女間で共に有意差が見られた。医学科と看護学科の間では前述のとおり，医学科は「素晴らしい医療従事者に憧れた」を理由とする場合が強く，看護学科の方が「家族・親族に医療従事者がいるため」と回答した点数が高かった。下記の表 17 より，回答数の割合を見るとよりその差が顕著にみられた。このことと，質問②の結果から，医学科より看護学科の方が家族や親族による影響が強いと考察した。

また，両者とも２番目に高い回答は「TV ドラマ・小説・漫画などの創作」が多かった。このことから，学科に関係なく，創作物が大きく影響していると考えられる。医学の体験活動についても医学科，看護学科共に４番目に高い点数，割合を示していた。

表 17　④の回答割合

回　答	医学部 医学科	看護学科	全　体
1 素晴らしい医療従事者に憧れた	50.0%	35.6%	44.8%
2 専門書を読んで興味がわいた	8.7%	13.6%	10.4%
3 行っている研究に興味をひかれた	14.4%	3.4%	10.4%
4 医学関係者が書いたエッセイ	10.6%	6.8%	9.2%
5 TV ドラマ・小説・漫画などの創作	40.4%	44.1%	41.7%
6 家族・親族に医療従事者がいるため	43.3%	57.6%	48.5%
7 医学に関する博物館等の展示	3.8%	0.0%	2.5%
8 医学の体験活動	27.9%	28.8%	28.2%
9 特になし・なんとなく	17.3%	15.3%	16.6%
10 そのほか	17.3%	16.9%	17.2%

質問⑤の回答結果より，大学選択の理由を，桜井ら（1995）と比較していく。「地理的環境」と答えた割合が 56.2% と最も高く，次いで「総合大学」（34.2%），「学費」（32.6%），「有名校」（31.8%）といった回答がほぼ同じ割合で回答されている。表 18 より，本研究では，「地理的環境」と回答した割合が全体の 72.4% であり，「偏差値」（48.5%），「大学の教育方針」（33.1%），「学費」（31.3%）と続く。大学選択の理由は，両研究ともに地域を選択している割合が最も高くなっていた。

本研究では桜井ら（1995）で高い割合であった回答に類似している「学校の形態」や「知名度の高さ」は，前者が 9.8%，後者が 11.0% と，低い割合となっている。地理的環境が両者で割合が最も高く，特に本研究では 7 割を超えていることと，桜井ら（1995）では複数の大学で調査を行っていること，愛媛県に医学科のある学校が 1 つしかないことから，「学校の形態」や「知名度の高さ」が低くなったと推測した。

表 18　⑤の回答割合

回　答	医学部 医学科	看護学科	全　体
1 知名度の高さ	11.5%	10.2%	11.0%
2 医師国家試験合格率	15.4%	10.2%	16.6%
3 地理的環境	78.8%	61.0%	72.4%
4 研究内容	9.6%	1.7%	6.7%
5 大学の教育方針	30.8%	37.3%	33.1%
6 大学の形態	11.5%	6.8%	9.8%
7 偏差値	44.2%	55.9%	48.5%
8 家族・親戚の勧め	24.0%	30.5%	26.4%
9 授業料などの学費	28.8%	35.6%	31.3%
10 関連機関との連携	2.9%	8.5%	4.9%
11 そのほか	5.8%	11.9%	8.0%

質問⑥の回答結果より，医学科･看護学科ともに，「コミュニケーション能力」と「専門知識の豊富さ」は回答割合が多く，特にコミュニケーション能力は 100％となっている。医学科，看護学科共に知識だけでなく，他者とコミュニケーションをとる必要があると考えていることが分かった。

質問⑦の回答結果より，入学後に苦戦しているものは医学科，看護学科共に「専門知識の習得」が最も高い割合となった。しかし，医学科は看護学科と比較すると「専門知識の習得」の割合が低く，「自身の生活管理」や「人間関係の構築」の割合が高くなっている。医学科内での比較では，男性は「自身の生活管理」の割合が高くなっていた。

質問⑧の回答結果より，自身の医療従事者への適性は，看護学科の学生の方が「あまり感じない」と評価する割合が多い。これは質問①で問うた進路決定の時期で，看護学科が比較的医学部より進路決定が遅いことが関係しているのではないかと考察した。

質問⑨より，医学科内では男性の方が女性よりも，今までの授業が役にたったと「感じる」と答えた割合は少なく，「全く感じない」と回答した人が多い。これは，全体的に女子の方が理科の選択科目で生物を選ぶ割合が多いためではないかと推察した。平成 27 ～ 29 年度センター試験の受験者数は物理と化学は生物の受験者数よりも圧倒的に高い。また，理科の選択科目の学科や性別ごとの人数，割合を集計している，科学技術振興機構理科教育支援センター（2011）による平成 20 年度高等学校理科教員実態調査報告書によると，物理Ⅱ（現在の物理）は，普通科と理数科において全履修者数に占める男子生徒の割合が 80% を超え（普通科 82%，理数科 81%），生物Ⅱ（現在の生物）は，普通科において女子の割合が高く（59%），理数科と SSH（スーパーサイエンスハイスクールの略称）においても，女子の割合は物理より高い割合を示している。これらの結果が⑨ -1 の回答割合に影響しているのではないかと考察した。

質問⑩の回答結果より，医学部の学科・性別問わず，およそ半数の学生（80 人）が，過去に大学などで行われている体験型学習を受講しているということが分かった。質問④では医療従事者を目指すきっかけとして体験型学習を上げている学生は全体の点数の 1 割であった。しかし，有効と答えている学生の数は 29 人であった。これらのことから体験型学習は受講した生徒の 3 割 6 分の学生に体験型学習は影響していることがわかった。

質問⑪の回答結果より，医学部に入るまでに医学について考える機会を与える催しが必要であるかは，医学科，看護学科ともに「必要である」「まあ必要である」と答えた割合が高かった。質問⑩で半数が体験型学習を受けているのに対し，この質問で強い肯定を示している学生が医学科では 6 割弱で看護学科では 4 割，弱い肯定が，医学科では 4 割弱，看護学科では 4 割強であった。学科の間で有意差が見られたのは，質問①の進路決定の時期の結果が関係していると考察した。また医学科，看護学科ともに，肯定的な意見が 8 割を超えていることから，医学について考える

催しとして，体験型学習が必要になると考えた。

特に質問①早期の進路決定，質問④目指すきっかけ，質問⑧適性，質問⑩体験型学習の経験および質問⑪催しの有効性の結果より考察すると，小学校段階からの医学教育の充実が必要であると考えられる。

5. おわりに

以上のように，今回の調査で地域性も含めて，医療従事に関するキャリアデザインについて一定の実態はつかめた。また考察より，早期の医学に関するキャリア教育の重要性が明らかになった。今後の課題は，まず現在の医療従事者を目指す子どもの各教育段階における傾向について調査を行い，より詳しい実態を明らかにすることが考えられる。さらに，それを活用して教材研究や進路指導などをどのように行うか検討を行うことが必要である。

文献

波多野梗子・小野寺杜紀（1993）看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化，日本看護研究会雑誌，Vol.19，No.4，21-28.

中野良哉・大倉三洋・酒井寿美・栗山裕司・稲岡忠勝・宮崎登美子・柏智之（2009）医療系専門学校生の進学動機と職業的同一性－理学療法士，作業療法士養成課程の学士を対象に－，平成21年度高知リハビリテーション学院紀要，第11巻，1-8.

落合幸子・本多陽子・落合良行・藤井恭子・塚本信宏・大橋ゆかり・野々村典子・黒木淳子（2006）医療系大学への進路決定プロセスと入学後の職業的アイデンティティとの関連，医学教育，第37巻，第3号，141-149.

桜井勇・橋本信也・尾島昭次・佐藤重房・高垣東一郎・中川米造・堀原一・牛場大蔵（1995）大学選択に関する医学生の意識調査，医学教育，第26巻，第3号，189-193.

山川裕子・藤本裕二・松浦江美・楠葉洋子（2012）看護学生の志望動機と職業アイデンティティとの関連，日本看護研究学会雑誌，Vol.35，No.3，305.

白鳥さつき（2002）看護学生の職業社会化に関する研究，山梨医科大学紀要，第19巻，25-30.

独立行政法人　大学入試センター,「受験者数・平均点の推移（本試験）平成27～29年度センター試験」,（最終閲覧日：11月20日）https://www.dnc.ac.jp/center/suii/h27.html

（独）科学技術振興機構　理科教育支援センター（2011，3月）平成20年度 高等学校理科教員実態調査報告書，18.

［謝辞］

本研究は愛媛大学医学部医学科・看護学科の学生の皆様に協力していただいた。ここに記して感謝申しあげる。